

平成25年11月 2日



多摩支部会報

全国校友大分大会特集号

東京都多摩支部
支部長 安田 暉
多摩支部広報部会
042-723-4284



旗手 林 美穂（平成14年商 アテネ五輪カヌー入賞）



校友会の役割は、母校が発展・充実するよう、そして後に続く学生が各人の夢を実現して社会に貢献できるように支援することである。現在、持続性ある校友会活動に向けた改革に取り組んでいます。皆様のご協力とご支援をお願い致します。



母校明治大学は大変な隆盛期にあり、研究・教育・社会貢献・スポーツ・芸術・報道関係等あらゆる分野で、学生や教職員の活躍には目を見張るものがある。

本学の校友のあらゆる分野におけるこれまでの地道な活動が、現在の母校の隆盛に繋がっている。



本年、明治大学は中野キャンパス開校と総合数理学部開設を図った。中野キャンパスは「国際化・先端研究・社会連携の拠点」であり、国際日本学部、総合数理学部のほか、三つの大学院研究科が教育・研究を展開している。現象数理学研究は内外から高い評価を受けており、本学がが世界に誇れる研究の一つである。

国際化・少子化の影響は着実に表れており、世界の高等教育機関と比較される時代であり、社会構造が変化している今、攻めの大学経営に転じなくてはならない。真摯に経営に取り組み有為な人材を育てる。



今日、明治大学は「時代を拓き、世界へ発信する大学」として揺る無く発展していくため、その基盤固めに教育・研究力の質的飛躍を積極的に促進している。約六十年振りに新キャンパスⅡ「中野キャンパス」が、「国際化・先端研究・社会連携の拠点形成」を目指して、そして駿河 台キャンパスには、「グローバル化する時代の先端的教育研究拠点として」、「グローバルフロント」が開設された。民間機関の大学ブランドランキングによると関東地区で五年連続一位となり、各項目の全一位を獲得した。これは本学に対する期待の一つでもあり、これに応えるためにも身を引き締めて精進する。

全国校友大分大会

全国校友大分大会 1100名の校友参集

多摩支部校友集合写真 (総数21名中居合わせた校友)



写真提供：鈴木絃一氏



春秋連覇



38年振りの快挙

中日スポーツ

新たな歴史の1ページが刻まれた。明大が2季連続36回目のリーグ制覇を成し遂げた。最終カードで法大に連勝し、勝ち点を4に伸ばした。最終週に慶大に勝ち点で並ばれても、勝率で上回るため優勝が決まった。春秋連覇は昭和50年以来チーム史上4度目。春逃した日本一を懸け、11月16日開幕の明治神宮大会に出場する。

編集後書

全国から1100名の校友が集い第49回全国校友大分大会が別府市で開催され、多摩支部地域からも21名の参加(名簿上)がありました。名湯につかり輪を広げ活力を培ったものと思います。お疲れさまでした。

六大学野球、多摩支部からの応援が届きました。ラグビー自由席、ガラガライベント盛り沢山ありますので、孫・子と行くとなくなにか楽しいことがあるみたいですよ。